

知床国立公園 カムイワッカ園地

決定

区域面積：26.5ha

執行者（予定者）：斜里町

第2種特別地域（国有林、道有地）

●位置図
北海道

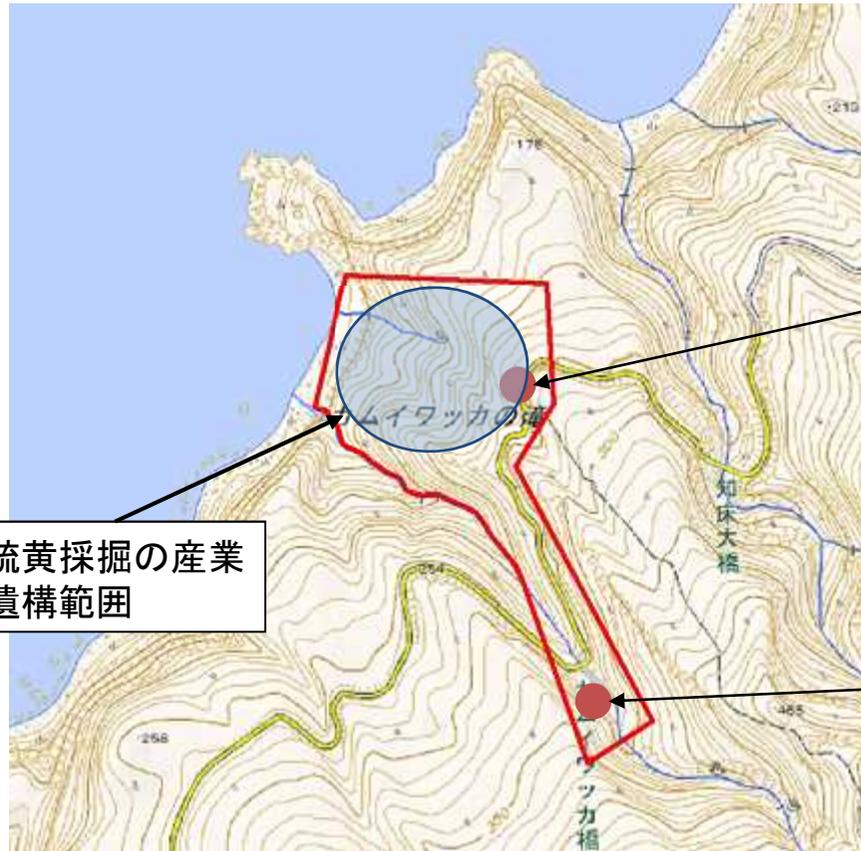


●公園計画図



- 周辺は、トドマツ、ミズナラ、ハリギリ、ダケカンバ等からなる針広混交林。カムイワッカ川には温泉水が流入し、「カムイワッカ湯の滝」と呼ばれる。
- 主な利用形態は、カムイワッカ沢内における温泉入浴体験、自然散策である。

カムイワッカ園地決定区域図



硫黄採掘の産業
遺構範囲

事業規模

区域面積：26.5ha



硫黄山登山道起点付近



カムイワッカ湯の滝

○現在の利用拠点は、「カムイワッカ湯の滝」と呼ばれるカムイワッカ川沿いの区域である。また、現在利用対象ではないが、カムイワッカ川河口には硫黄採掘の産業遺構が残っており、今後活用が考えられる。そのため、現在の利用拠点と将来的に利活用されうる区域を含んだ範囲を決定する。

園地の整備

執行者予定者：斜里町

- カムイワツカ湯の滝へと続く利用者通路の土砂流出に対応するため、通路手すりを整備する。整備にあたっては、新たな地形の改変等を行わず、風致上支障のない形状及び色彩とする。
- 下水道が整備されていないため、くみ取り式のトイレを整備することで、周囲の河川や湖沼の水質に影響を与えないようにする。
- カムイワツカ川河口に硫黄採掘の産業遺構が残っており、将来的には歴史的経過や火山の影響を受けた自然環境を教育できる場として整備を行う。



カムイワツカ湯の滝①



カムイワツカ湯の滝②

知床国立公園 ルサ園地

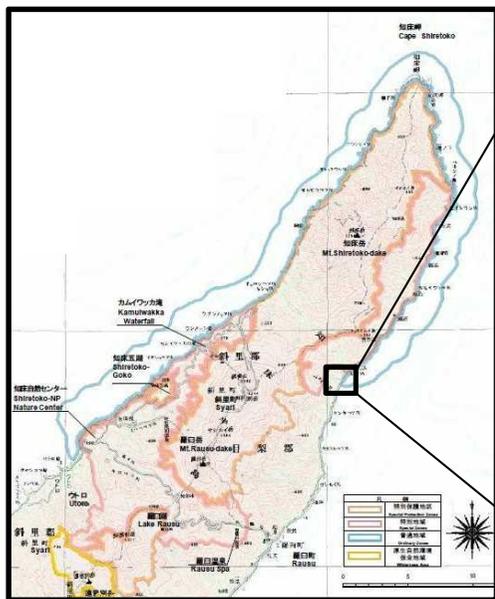
決定

区域面積：2.0ha

執行者（予定者）：環境省

第1種特別地域（所管地）

●位置図



○当該地域の概要、利用状況等

当該地は知床連山の東に位置し、羅臼町市街地や知床半島先端部地区に繋がる重要な地域である。平成21年には知床世界遺産ルサフィールドハウスが設置され、観光目的の利用のほか、先端部地区の安全対策に係る事前レクチャー受講などの情報収集の場や地域住民の憩いの場として年間約9,000人が利用している。

ルサ園地決定区域図

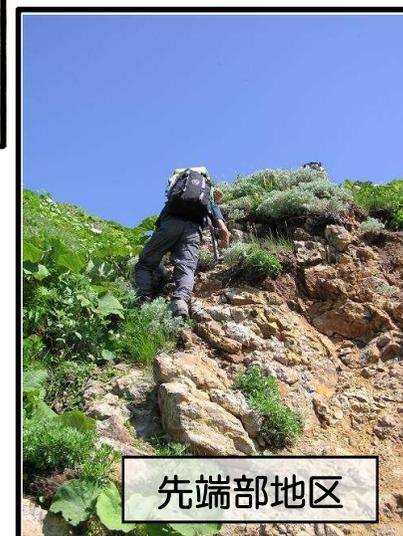


事業規模

区域面積：2.0ha



ルサ川西側平野部



先端部地区

○事業変更の理由、事業規模の根拠（理由）等
令和元年の公園計画変更により保護規制が第1種特別地域に変更されたことに伴い、当該園地の事業決定を行うもの。本事業地を、先端部地区の一層の適正利用に向けた情報提供拠点とするとともに、環境教育活動のさらなる推進を図るための利用拠点として整備する。事業規模は環境省所管地の2.0haとし、直轄事業として行う。

植生の復元整備

- ルサ川西側平野部の人為改変地において、生育を妨げる要因となっている強風及びシカの食害に対して防風・防鹿柵を設置し、自然状態でのトドマツ、ミズナラの育成試験を現在実施中、引き続き必要な箇所では植生回復のための事業を実施予定
- 当該事業に関して、環境省・羅臼町・知床財団の3者で連携・協力し、事業に取り組んでいる



園路の整備

- 植生回復事業の普及啓発や森、川（ルサ川）及び生物（猛禽類等）のつながりをテーマとした自然観察会等の環境教育を実施するため、将来的に園路等を設置する

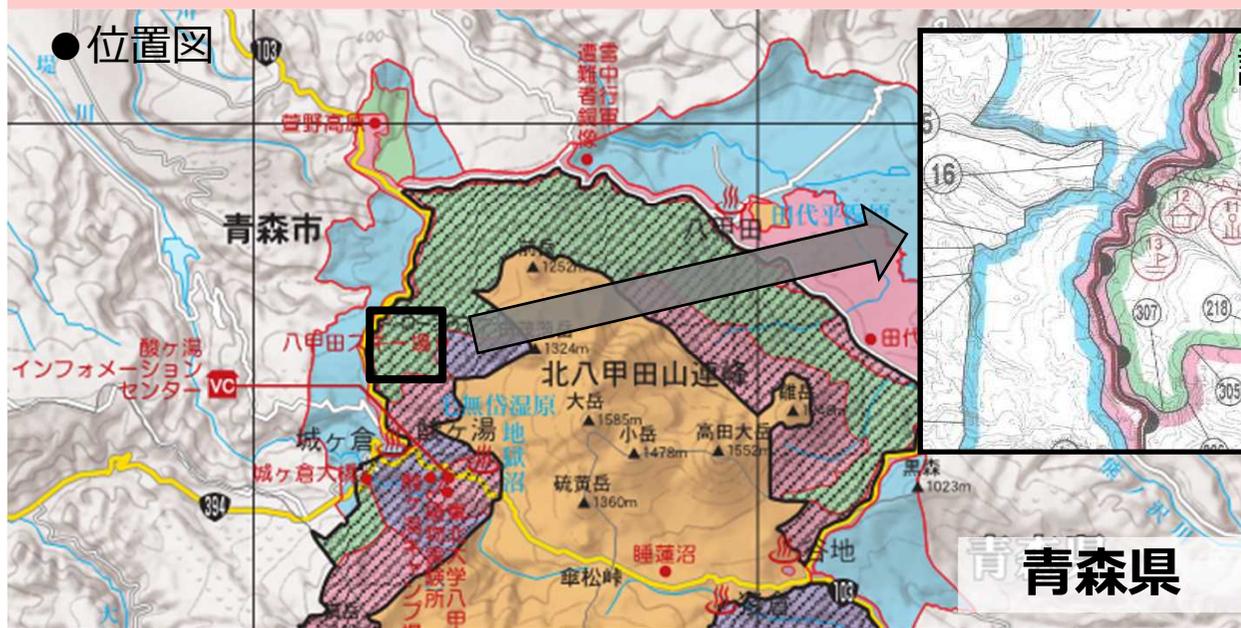
十和田八幡平国立公園 寒水沢宿舎

変更

区域面積：0.7ha→3.0ha

執行者：民間

第2種特別地域（私有地）



北八甲田連峰



八甲田ロープウェイ

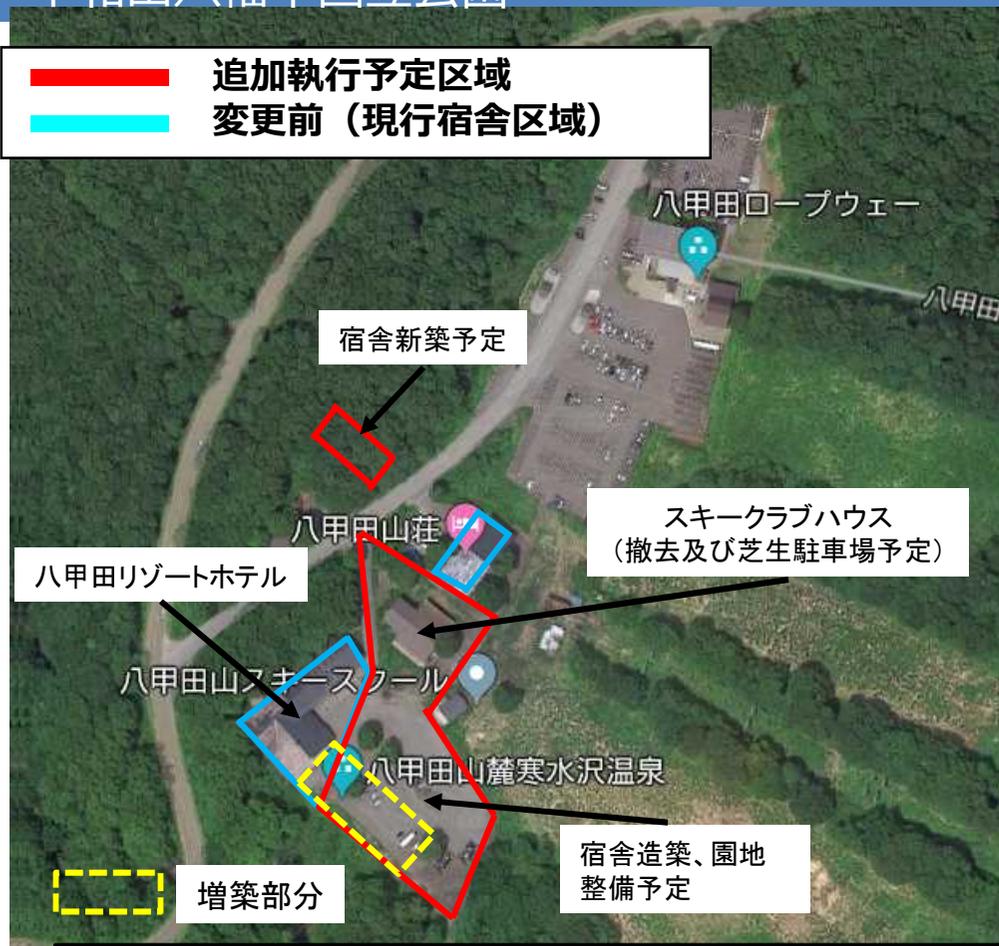


毛無岱湿原

○十和田八甲田地域の北部、大岳を最高峰に十数余りの山々からなる北八甲田地区に位置し、雄大な山岳景観を保持するとともに山稜部には学術的にも優れた植物相が点在している。

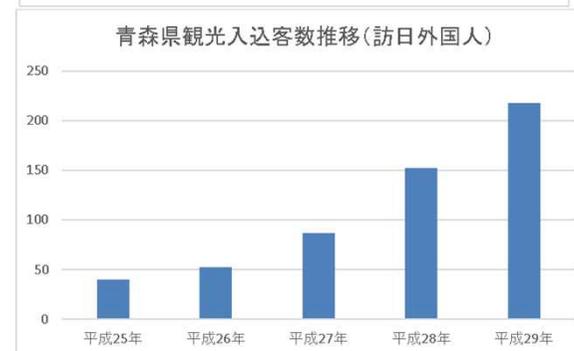
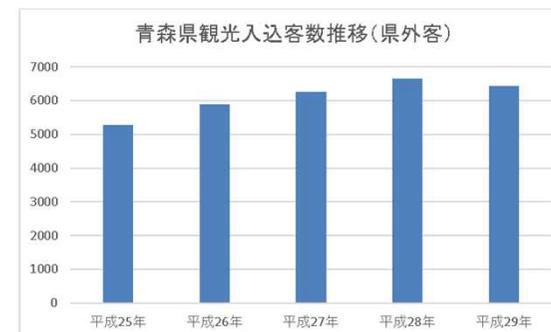
○近隣には古くからの湯治場として有名な酸ヶ湯温泉があるなど、温泉湯治・登山・紅葉観賞・スキー利用と年間を通して利用が盛んである。

■ 追加執行予定区域
■ 変更前（現行宿舎区域）



事業規模：区域面積：0.7ha → 3.0ha

最大宿泊者数：200人/日→600人/日



出典：「平成29年度青森県観光入込客数統計」

○十和田八幡平国立公園満喫プロジェクトのステップアッププログラム2020において、本公園の訪日外国人利用者数を0.7万人から3倍の2.1万人にすることが目標として掲げられている。

○平成25年から平成29年の間に青森県の外国人延べ宿泊数が4.3倍に推移しており、当該も八甲田ロープウェーや八甲田スキー場があり、パウタースノーの雪質を求めて訪日外国人利用者が増えている。

○以上のような背景から、八甲田リゾートホテルの増改築（リニューアル）を行うことで宿泊拠点の拡充を図る。※八甲田リゾートホテルの収容人員110人/日→500人/日

宿舎の増築、新築及び駐車場等の整備

- ・ 既存宿舎を南側に増築し、八甲田山荘の北側に宿舎を新築する
- ・ 宿舎及び八甲田ロープウェイから望見されるアスファルトの駐車場について、アスファルトを剥がし、芝生で緑化し、園地として整備する
- ・ 同様に、スキークラブハウスも撤去及び緑化し、芝生の駐車場として整備する



自然環境への影響

- ・ ホテルの増築、園地及び駐車場の整備について、既に開発されている場所を最大限活用し、新規開発を最小限とする
- ・ 八甲田ロープウェイから望見される部分が新たに緑化されることにより、景観の改善が図られる
- ・ ホテル新築場所について、雑木林を選定し、自然環境へ与える影響を最小限とする

日光国立公園 川治女夫淵温泉線道路（車道）

変更

路線距離：36.6km→変更無し

有効幅員：6m →変更無し

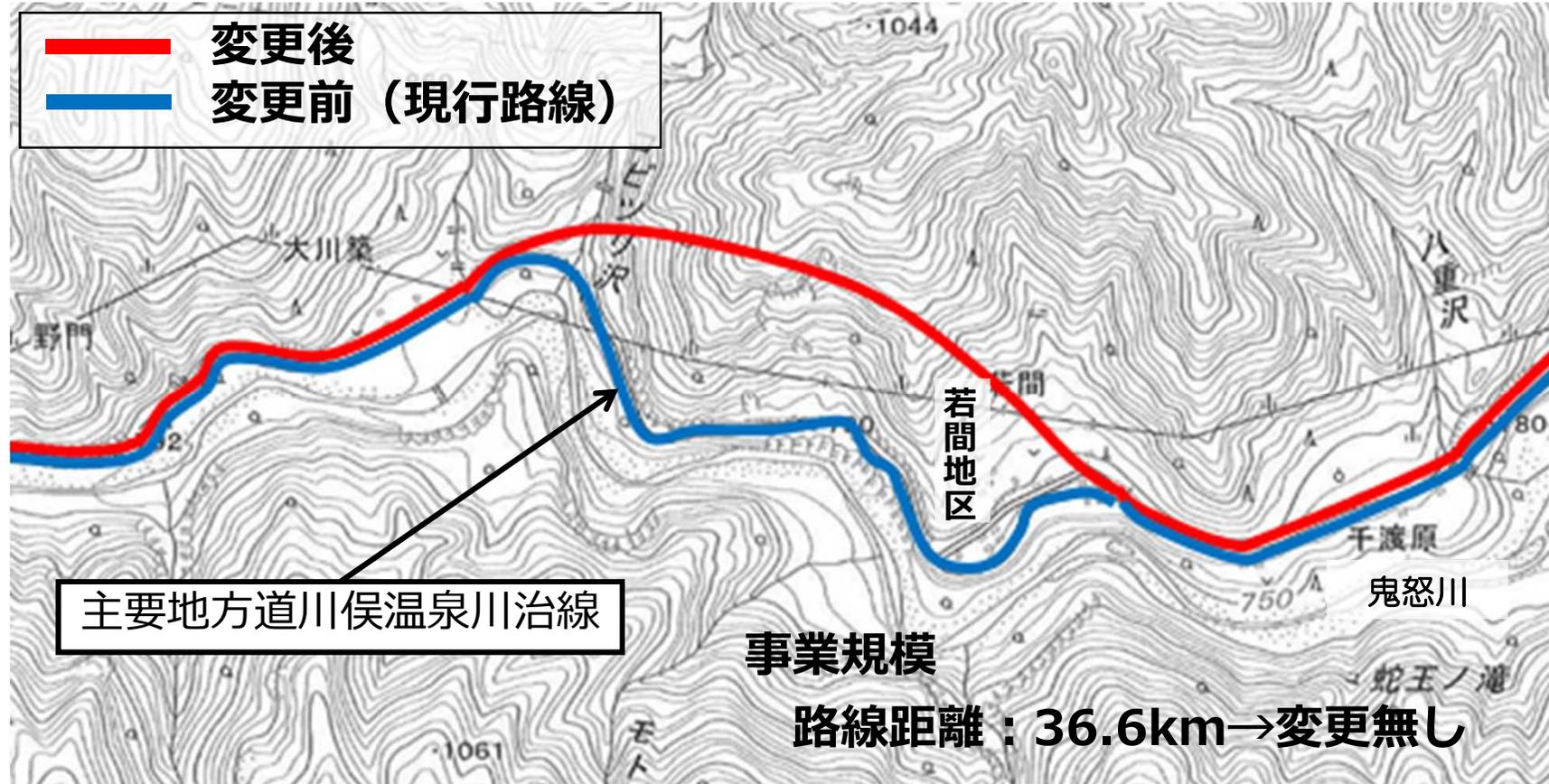
執行者：栃木県

第2, 3種特別地域、普通地域（県有地）



○当該道路は、栃木県日光市栗山地域の川治温泉と女夫淵温泉を東西に結ぶ主要地方道川俣温泉川治線で、日光市藤原地区の観光拠点である鬼怒川・川治温泉郷から栗山地域の観光拠点である川俣温泉郷や紅葉の名所である瀬戸合峡を經由して奥鬼怒温泉郷を結び、代替路線のない唯一の生活道路として重要な役割を担っている。

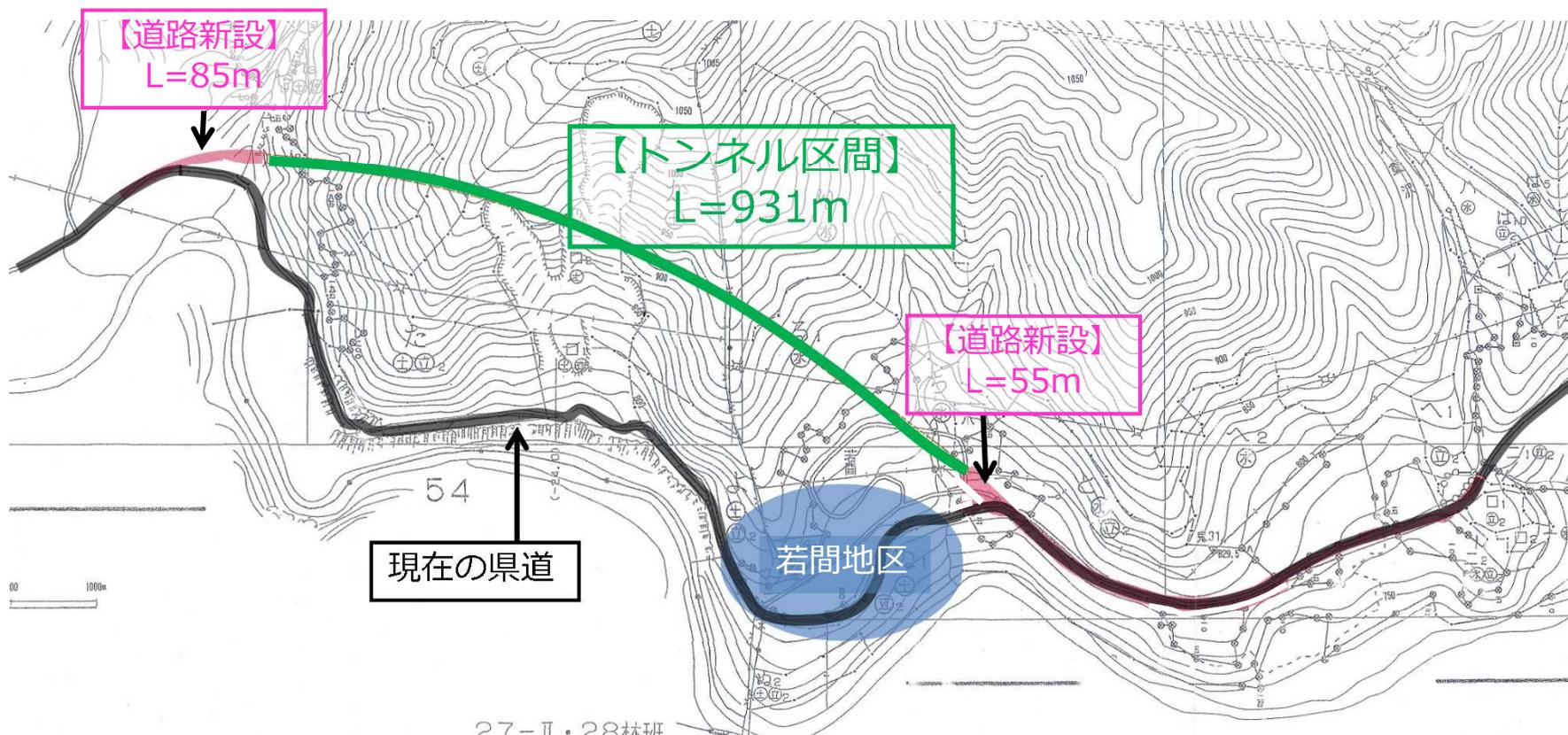
○平成27年度道路交通調査では自動車交通量は1,071台/日であった。



- 山間部の急峻な地形上に位置する本箇所には、落石等の防災危険箇所が多数存在し、過去には土砂崩れにより集落が孤立化する事態が発生している。さらに、現道は幅員が狭隘で屈曲箇所が多いことから、観光シーズンには大型バスはもとより普通乗用車同士のすれ違いにも支障をきたしている。
- そのため、通行止めによる孤立化の防止と、車両の円滑で安全な通行を確保するため、バイパス路としてトンネルを整備する。

バイパストンネル整備

- 落石等の防災上危険で、幅員が狭隘で屈曲区間において、執行者である栃木県がバイパス路としてトンネルを整備するとともに、接続する区間において幅員を拡幅する。
- バイパス路により代替された道路（旧道）は、若間地区の住民の生活道路として引き続き管理。



自然環境への影響

- 道路の線形は、極力地形に順応させることでトンネル抗周辺の改変面積は必要最小限に押さえられている。
- 支障木として道路新設・拡幅区間を含め、ミズナラ等の樹木が約660本伐採されることが想定されるが、必要最小限であり、また、これらの樹種及び林内植生には特に保護の必要な希少種等は確認されていない。
- 工事で発生する法面は、周辺の森林から飛来した種子により、緑化する予定。
- 擁壁等の構造物については、岩石を模した意匠仕上げとする。
- 周辺にはクマタカの営巣地が確認されているところであるが、日本野鳥の会栃木支部の有識者との調査・検討の結果を踏まえ、営巣地の遠方誘導や繁殖期の工事の回避、モニタリングといった影響低減措置の検討・実施することとしている。



富士箱根伊豆国立公園

変更

区間距離 2.0km → 8.0km

執行者

山梨県、笛吹市（予定）

御坂山系縦走線道路（歩道）

第2種特別地域、第3種特別地域（山梨県有林）

●位置図



— 変更後（追加）
— 変更前（現行）

●計画図



- 富士北麓の御坂山系の稜線を東から西へ横断する登山ルート
- 河口湖をはさみ富士山の展望に優れたエリア
- 新道峠には林道を使用しマイカーで近くまでアクセスが可能

展望デッキの新規整備

追加区間距離 6.0km

執行者：笛吹市

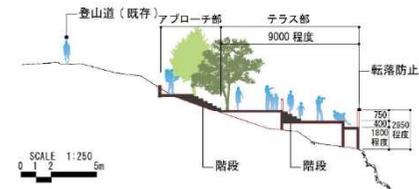
- 「富士山がある風景100選」に選定されている新道峠付近に2箇所展望デッキを整備
- 登山者の利用の他、団体の観光客や小中学生の校外学習への活用を想定
- 山麓の歩道を含め、新道峠を起点とした黒岳から大石峠への散策コースの整備を検討



現況



整備後イメージ



自然環境への影響

- 県有林かつ保安林であることを踏まえ、必要最低限の伐採、土地改変にとどめる。
- 地形浸食を抑制するため、地形から張り出したデッキの整備を想定。

富士箱根伊豆国立公園

変更

御蔵島南郷線道路（車道）

区間距離：16km

有効幅員：4m→4.5m

執行者：東京都

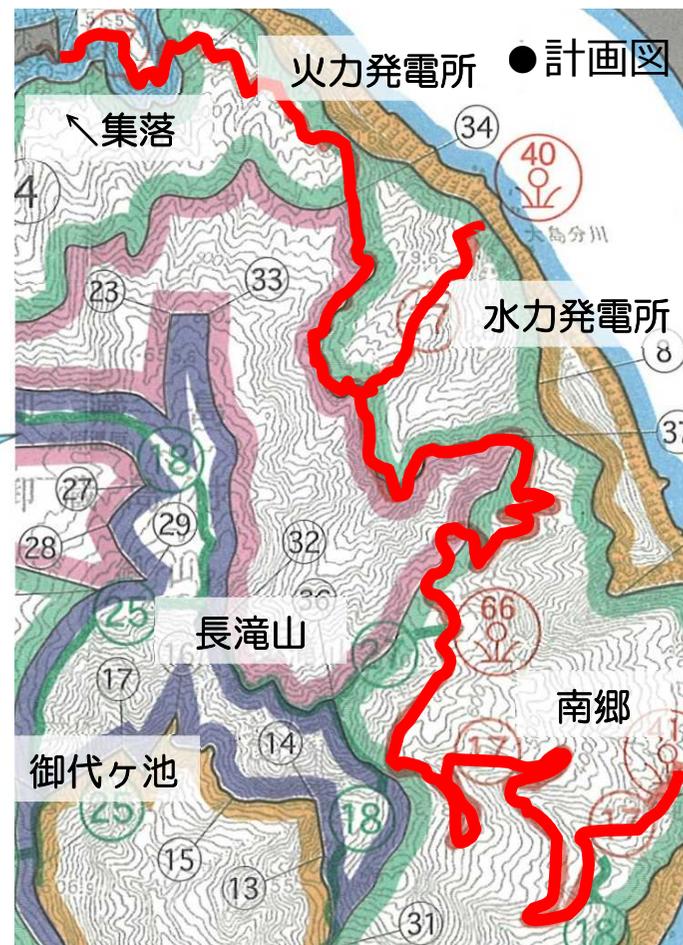
第2種特別地域、第3種特別地域、普通地域（東京都有地）

●位置図

東京都御蔵島村



長滝山



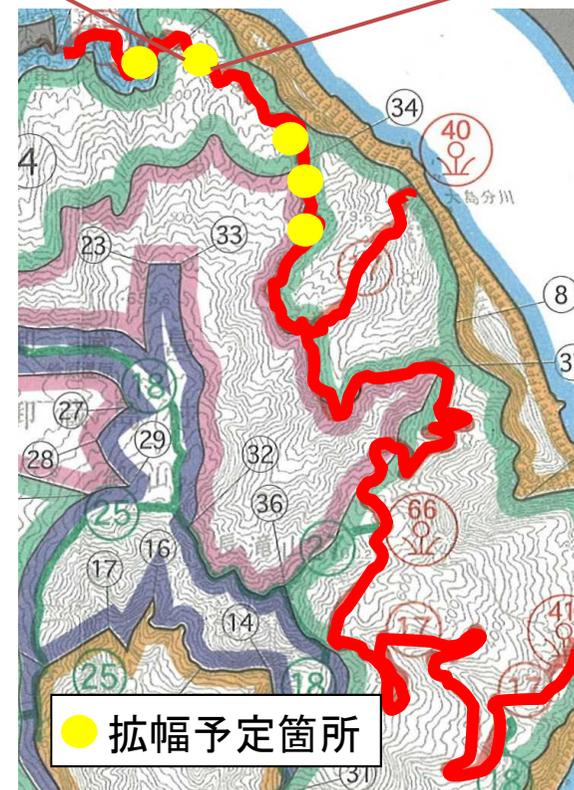
- 集落から島南東部の南郷地区を結ぶ唯一の車道
- 長滝山への登山、御代ヶ池や南郷のスダジイの巨樹を探勝するハイキング等へのアクセス路として利用されている。
- 火力発電所及び水力発電所へのアクセス路としても利用されている。

安全確保のための道路拡幅

事業規模 有効幅員：4m → 4.5m

執行者：東京都

- 現在の有効幅員では、発電所への物資輸送等のための大型車両の通行があった場合の車両の離合が困難である。
- 本車道の多くの区間は、路肩が最小限しかないと車を待避することが困難であり、地形の制約上待避所を設置出来る箇所も限られている。また、連続したカーブが多く非常に見通しが悪いため出会い頭に正面衝突する危険性が高く、安全な車両通行のため道路の拡幅が必要である。



自然環境への影響

- 拡幅は全区間では無く、特に車両通行が多く見通しの悪い危険な区間を選択して行われる。
- 支障木の伐採は一箇所につきスタジイ等十数本程度と必要最小限に抑えられる。
- 擁壁等は谷側に必要最小限の規模で設置することとし風致上支障のない形状及び色彩とする。
- 工事時期の選定に当たっては、希少鳥類の繁殖に影響を与えないよう配慮する。

中部山岳国立公園 鏡平宿舎

変更

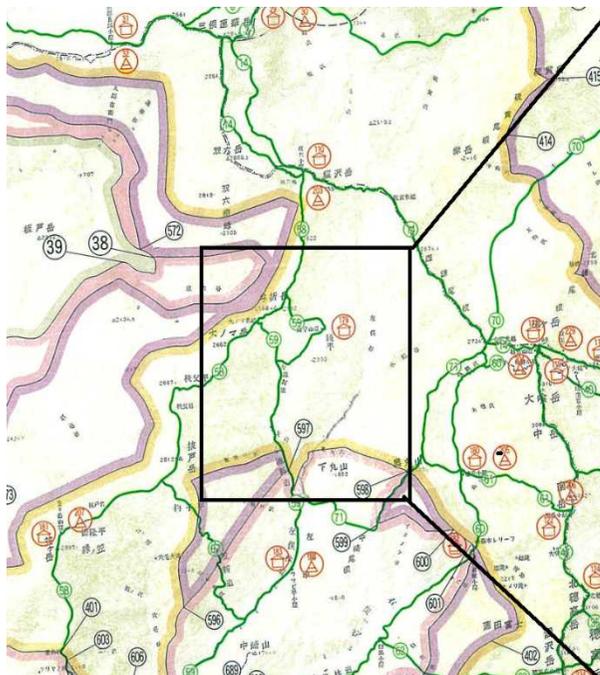
区域面積：0.1ha→0.15ha

最大宿泊者数：50人/日→110人/日

執行者：民間

特別保護地区（国有林）

●位置図



●公園計画図



- 鏡平宿舎は標高2,300mの弓折岳の直下に位置し、シカビソ、ナナカマド、ダケカンバ等の木々に囲まれ、周辺には鏡池、ひょうたん池など多くの池がある。
- 岐阜県側から北アルプスへの登山ルートにあり、槍・穂高連峰から笠ヶ岳・双六岳のほか奥黒部方面へと向かうメインルートであり利用者も非常に多い。

鏡平宿舎変更位置図

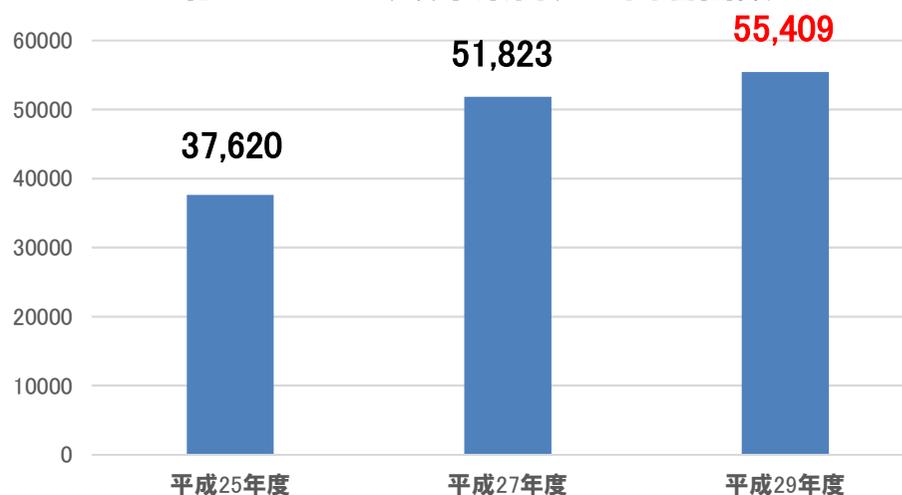


事業規模

区域面積 : 0.1ha→0.15ha

最大宿泊者数 : 50人/日→110人/日

北アルプス（岐阜県側）登山届出数



- 平成25年度から29年度の間、岐阜県側からの北アルプス登山届出数が1.5倍になっており、客室及びトイレが不足している。
- 以前から客室が不足していたこと及び届出数の増加を考慮し、最大宿泊者数を増加させる。
- ヘリからの荷下ろし場が宿舎に近く危険だったため、離れた場所に移動する
- 客室の増加、高処理能力トイレへの改築、荷下ろし場の移設のため、区域面積を広げる。

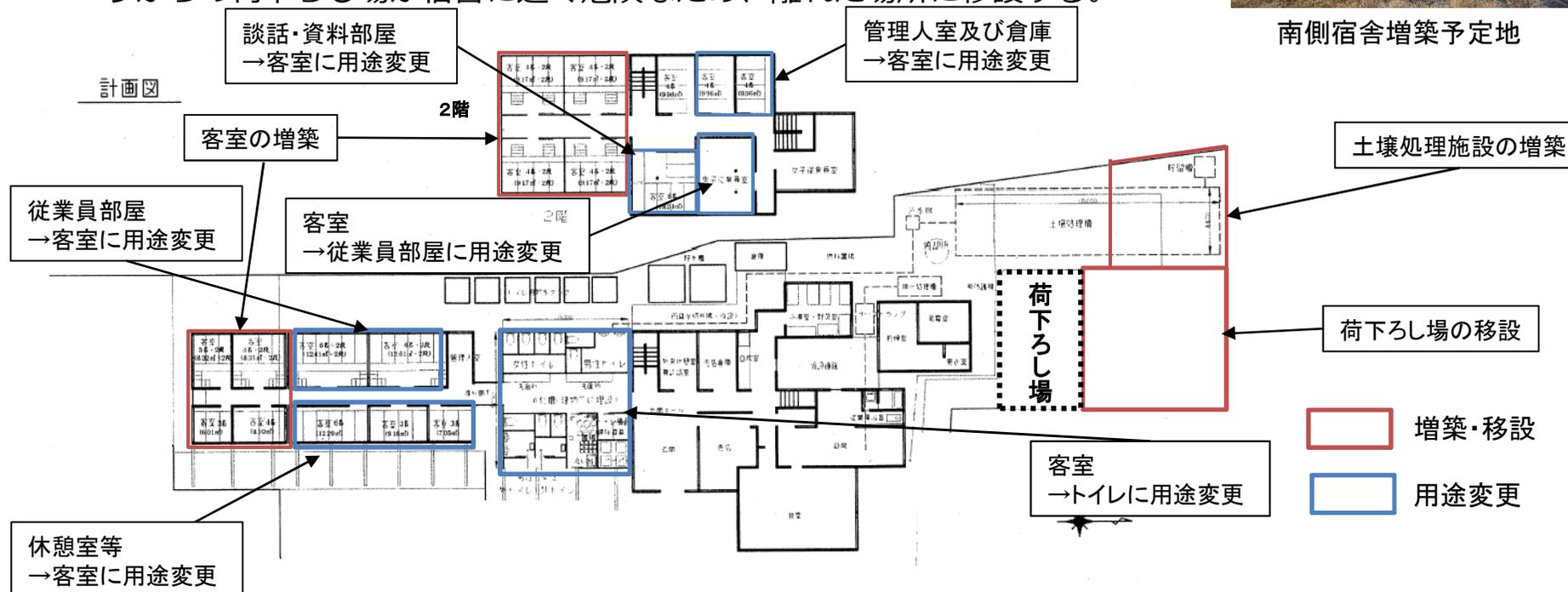
宿舎の増築、トイレの整備及び荷下ろし場の拡張

執行者：民間



南側宿舎増築予定地

- 宿舎の南側及び2階の客室増築。
- 1階の客室の一部をトイレに改築し通過利用にも開放する。
合わせて、TSS汚染処理システムを整備し、尿尿・雑排水を処理。
- ヘリからの荷下ろし場が宿舎に近く危険なため、離れた場所に移設する。



自然環境への影響

- 宿舎増築及び荷下ろし場の移設は既に裸地化している場所で行うため、自然環境の改変は必要最小限のものである。
- TSS汚染処理システムの整備によって処理能力の向上が期待できる。

吉野熊野国立公園 フェニックス褶曲園地

決定 区域面積4.0ha
執行（予定）：環境省

特別保護地区、第2種特別地域、第3種特別地域、普通地域（町有地、民有地）

●位置図



●公園計画図



○当該地周辺は、海洋プレートが大陸プレートの下に沈み込む地殻変動によって、多様で特徴的な海岸地形が形成されている。特にフェニックス褶曲はプレート運動を観察できる特徴的な地層であり、世界的に有名な褶曲露頭である。

○主な利用形態は、自然探勝、釣り及びシーカヤック等である。平成26年に南紀熊野ジオパークとして日本ジオパークに認定され、当該地は代表的なジオサイトになったことから、自然探勝の利用者が増加傾向。

フェニックス褶曲園地決定区域図



事業規模

区域面積：4.0ha



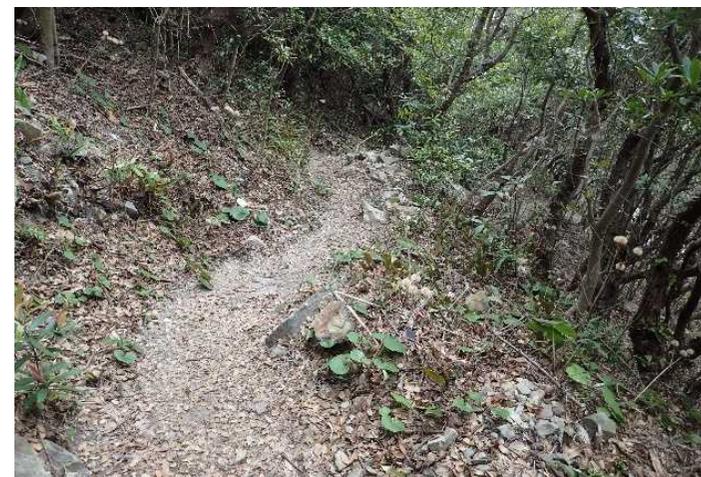
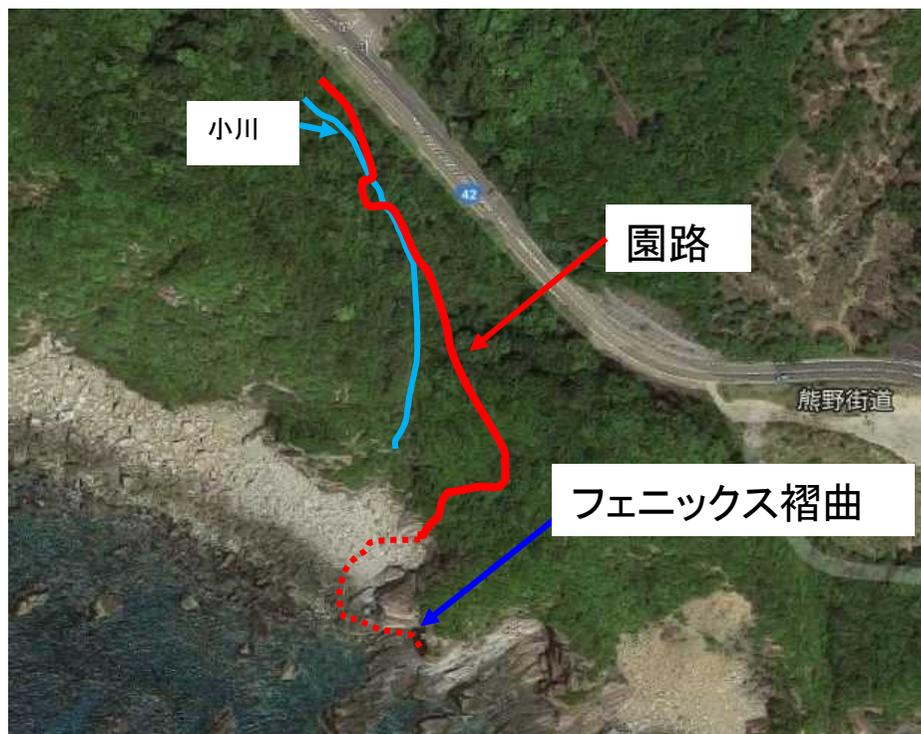
フェニックス褶曲

- 景勝地であるフェニックス褶曲とそこに至る園路を含む区域を決定範囲とする。
- 園路について、もともと主に釣り人が利用しているルートがあるため、そのルートを活用して園路整備する予定。

園路の整備

執行予定者：環境省

- 近年の利用者増加に伴い利用圧による既存ルートの一部崩壊、ルートを外れた植生の踏み荒しやルート誤認による道迷い等が発生している。また、ルートの途中で急峻な岩場などがあり転落などの危険もあることから、利用上の安全性を確保し周辺の自然環境への影響を軽減するため園路の整備は必要。
- 環境省においてフェニックス褶曲周辺を採勝できる園路の整備を行う予定。



フェニックス褶曲までの園路

自然環境への影響

- 園路の整備に当たっては、既存のルートを活用することで、支障木の伐採や土地の形状変更等が必要最小限となるよう配慮する。なお、当該区域には特に保護の必要な希少種等の生息・生育は確認されていない。
- また、ガイド同伴で安全に利用できる必要最小限の整備を想定しており、周辺の風致景観の保護上の支障を極力軽減することとしている。



フェニックス褶曲までの既存園路

大山隠岐国立公園 大山寺駐車場

変更

区域面積：2.2ha→**2.8ha**

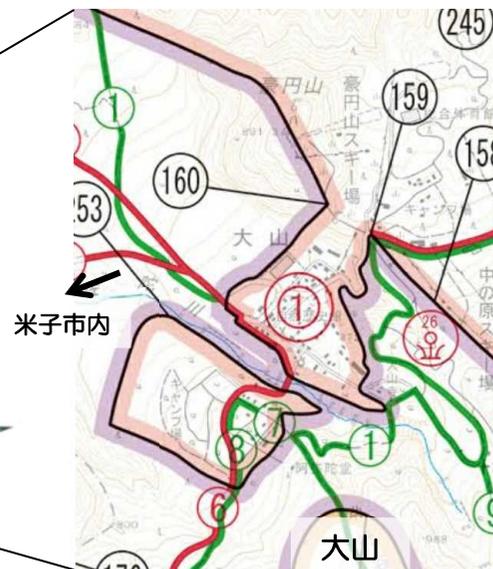
執行者：鳥取県

第2種特別地域（県有地・町有地・民有地）

●位置図



●計画図



○事業地周辺の主な利用形態は、登山、キャンプ、自然探勝及び社寺の歴史探勝、スキー等の野外レクリエーションに利用され、大山地域の主要な利用拠点となっている。本駐車場はこれらの利用者における主要な駐車場であり、また災害等有事における指定緊急避難場所に指定され、当該地域における観光及び生活の重要な拠点である。



大山

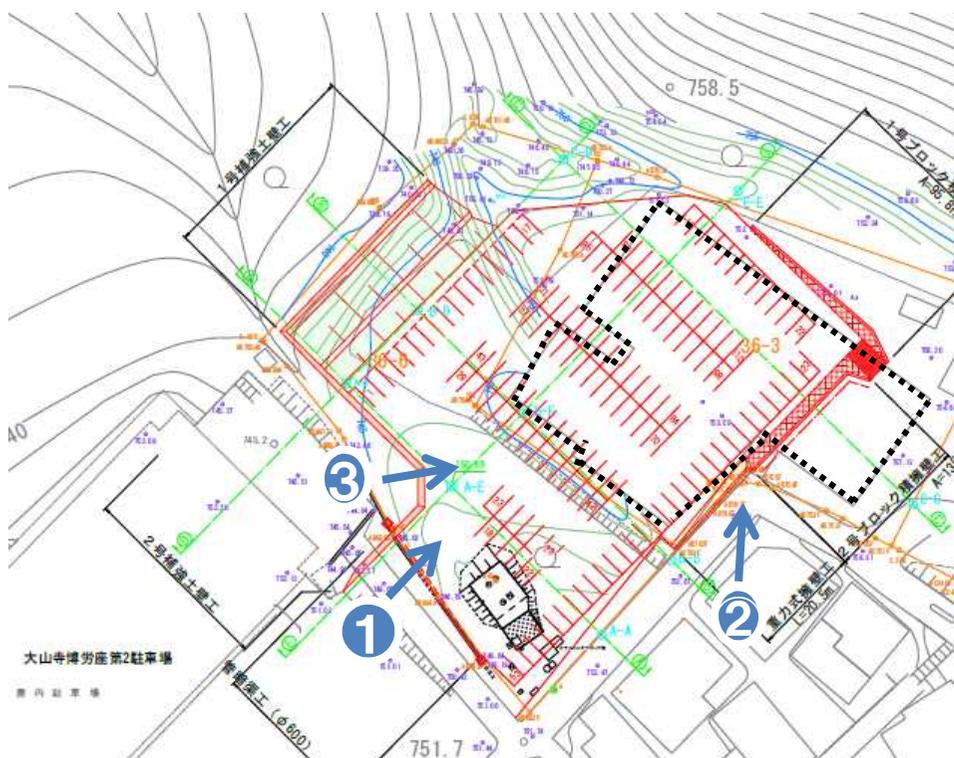


○以前より、駐車場の不足について地元要望もあり、特に冬場のスキーシーズンにおいては、駐車場の不足のため、別駐車場からシャトルバスの運行により賄っており、事業者の経済負担及び利用者の快適な利用に支障が生じている状況。そのため、既存駐車場の拡張整備を実施し、快適な利用の確保を図る。

既存駐車場の拡張整備

- 大山における利用者の拠点となる駐車場であり、既存施設の撤去後に、駐車場の拡張整備を行い利用者数に見合った駐車台数とすることで、来訪者へより快適な利用の確保を図る。

既存駐車場拡張整備： A=0.6ha 執行者（予定者）：鳥取県



拡張工事実施箇所



撤去予定宿舎



自然環境への影響

新たに拡張する駐車場の区域は、既存施設の跡地及び既存施設地内の疎林部である。支障木を十数本程度伐採されることが想定されるが、必要最小限である。主要な展望地からは望見されず、主たる展望方向でもなく、周囲に希少種等は確認されていないため、風致及び自然環境への影響は小さい。以上のことから、周囲の自然環境へ与える影響は少ないと考えられる。



雲仙天草国立公園 前島園地

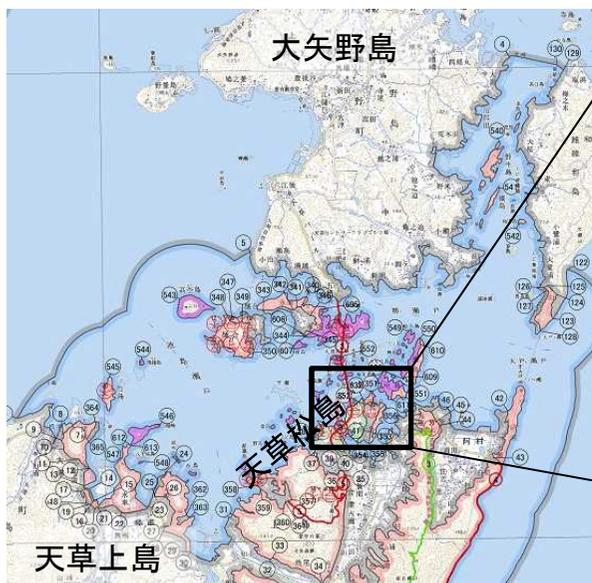
変更

区域面積：3.5ha→5.0ha

執行者：上天草市、民間（予定）

第2種特別地域（県有地及び民有地）

●位置図（天草地域）



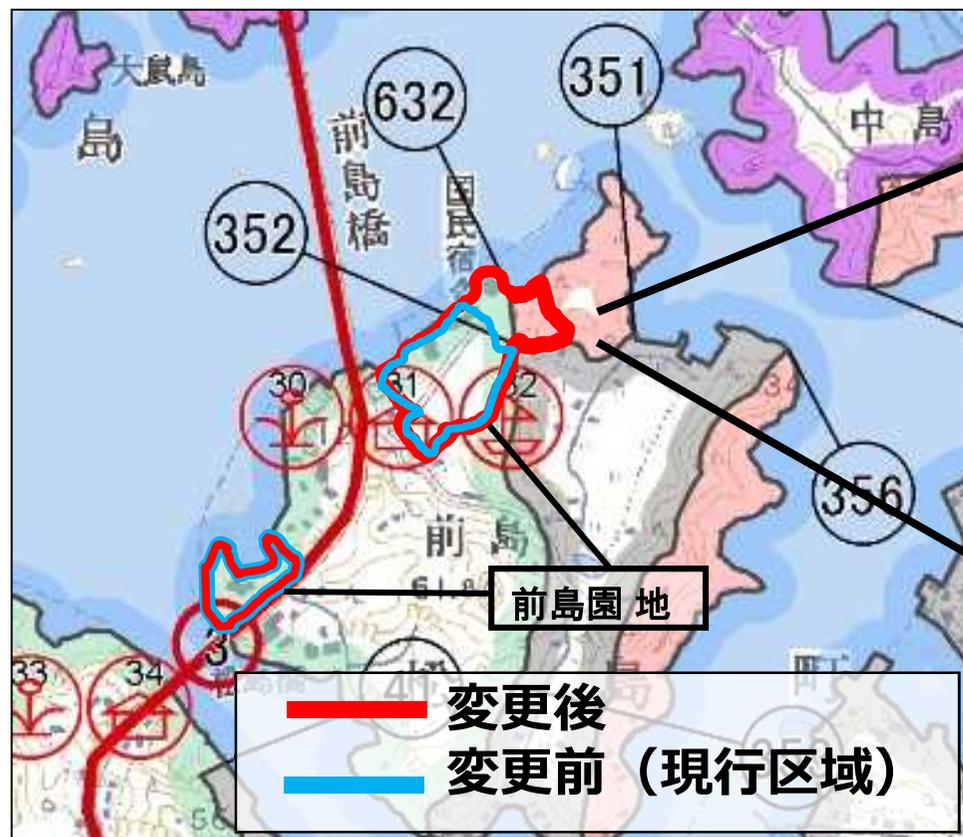
●公園計画図



- 前島園地は国立公園天草地域の玄関口付近であり、熊本方面から天草五橋4号橋渡った場所に位置する。
- 当該園地では、上天草市及び民間施設が事業を執行している。また、周囲には宿泊施設や海水浴場、千巖山自然散策、磯遊び場があり多様な利用がみられる。

変更規模

区域面積：3.5ha→5.0ha



- 天草五橋の開通（昭和41年）時に整備された民間の施設が老朽化したことから、天草市と民間事業者による再整備が計画されていることに伴うものであり、利用者への快適なサービスを提供できるように前島園地として整理するために、現区域面積を変更（増）するもの。

本園地事業における園地再整備



平面図

- 老朽化した施設を撤去し、自然景観に配慮した、チャコールグレーを基調にした外観やデザインとする休憩施設を新築 (①②)
- ふれあい広場や遊具広場を設置 (③)
- 駐車場を整備 (国立公園外、④)

①立面図



レストラン棟

②立面図



エントランス物産棟

自然環境への影響

- ・ 既存施設及び駐車場の敷地内を再整備するものであり、国立公園外に整備される駐車場へのアクセス道路が一部国立公園内を通過するが、鞍部地形に安全上最小限の幅員かつ最短経路で整備される予定であり、地形改変は必要最小限に抑えられる。
- ・ 望見箇所である天草五橋4号橋からは道路の全面に建物が整備され、建物の影になることから望見される恐れはない。



天草五橋4号橋からの遠景

上天草市や既存民間施設との連携について

- ・ 周囲（同園地内）には、上天草市が整備中の観光拠点施設（令和元年10月完成予定）がある。各施設の意匠が統一されるとともに、機能連携が図られることにより、松島地区の利用拠点としてのさらなる発展と周辺環境に調和した魅力の向上が期待できる。

阿蘇くじゅう国立公園 数鹿流ヶ滝園地

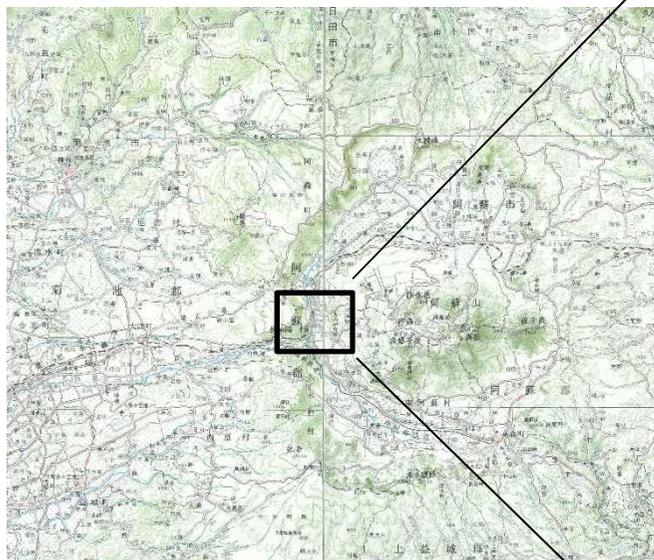
決定

区域面積：1.0ha

執行者（予定者）：熊本県

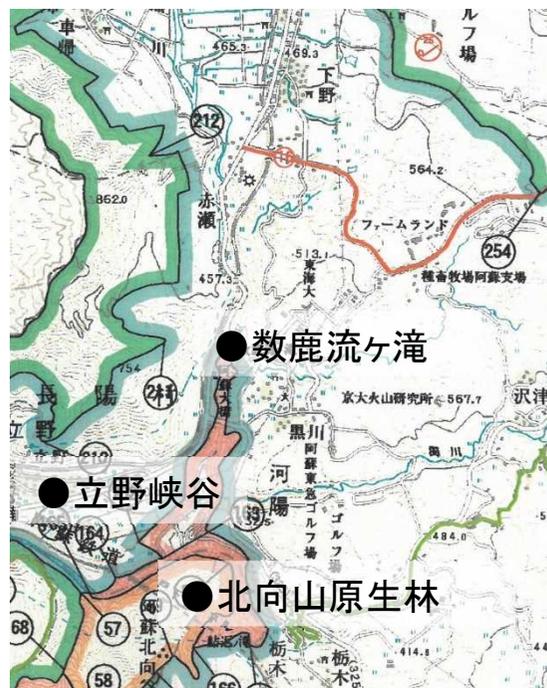
普通地域（民有地（学校法人東海大学））

●位置図



熊本県

●公園計画図



数鹿流ヶ滝



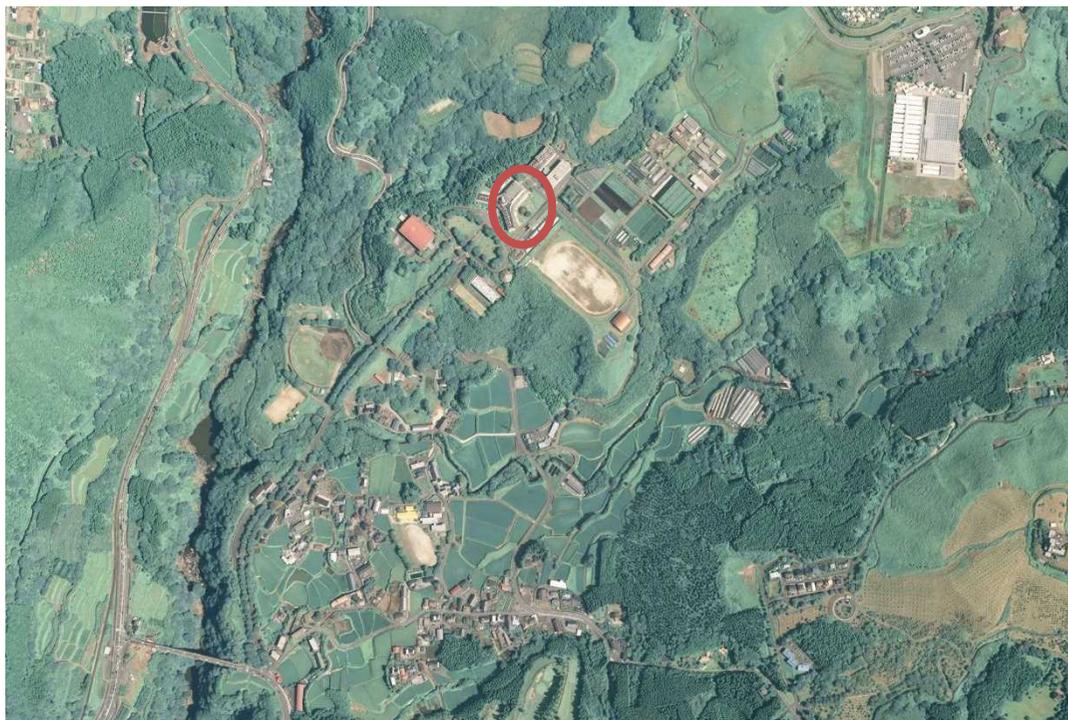
数鹿流ヶ滝園地

○当該地の周辺には、阿蘇カルデラの断層運動と河川浸食により形成された立野峡谷や北向山原生林、60mの落差がある数鹿流ヶ滝があって、良好な自然風景地が広がっている。当該地は平成28年の熊本地震の被災からの復旧が進められている一方で、地震断層等が残存し、震災遺構・防災教育の場として利用されている。

数鹿流ヶ滝園地決定区域図

事業規模

区域面積： 1.0ha



【地震断層震災遺構展示施設】残存している断層を保存・展示する施設と震災遺構を見学できる通路等を整備する。

自然環境への影響

従前より建物等が整備されていた大学敷地内を活用した事業であり、新たに大規模な改変、工作物の設置を伴うものではないことから、自然環境への影響は極めて小さい。

震災遺構等の利用については、特に安全性を確保する必要があるため立入制限等の管理を徹底する計画としている。



阿蘇ジオパークとの連携について

阿蘇ユネスコ世界ジオパークのジオサイトとなる数鹿流ヶ滝、立野峡谷が事業地周辺にあることから、今後、阿蘇ジオパーク推進協議会と連携し、一体的な利活用のあり方を検討していく。

